

もっと笑顔で、暮らせる明日へ。

aito

6

Jun 2022
No.327



エンジョイライフ

ふれあいを大切に楽しく習字を続けていく

立川支所管内 「春花会」書道教室

五十嵐 春花（まさ子）さん 写真前列左から3人目

自分の夢やいろんな事を
叶えられる人になってほしい

櫛引支所管内 佐藤 叶都くん(4)

好奇心旺盛な叶都くんはトラクターや耕運機などの農機具に興味津々。お父さんの真似をして、トラクターのエンジンをかけてから倉庫にしまうまでの一連の動作を再現して遊びます。優しくてこだわりの強い一面もある叶都くんの夢は農家さんになることです。



30代の頃、友人の作品に魅せられて書を始めたことが書道に触れたきっかけでした。40代で師範資格を取得し「春花会」書道教室を開き現在に至っています。親子代々で習いに来てくれる方もおり、書を通して繋がっていく関わりがとても嬉しく感じました。

私自身、師匠に言られた「人生楽しいことだけではダメ、何か一つでも辛いこともやらないと」との教えを心に留め活動しています。作品は、読売展、県展、地元の展覧会に発表させていただいている。

書を通して心豊かに過ごせるお手伝いができれば幸せと思い、これからもたくさんの方々と巡り合う機会に感謝しながら活動を続けていきたいと思います。



ファミリーファーム

FAMILY FARM

農作物の生育変化を楽しみながら

羽黒支所管内 五十嵐 均さん(68)
たかあき やまと 孝章さん(32)・山登くん(0)

(均さん)私は、今から45年前に父から農業を受け継ぎました。水稲と柿を主力に生産しており、現在は、水稲11ha、柿60haの面積を栽培しています。現状維持を心がけながら、無理のない範囲で作付規模の拡大を考えています。農作業は、機械の運転・操作を息子が担当し、稻や水の管理など経験を必要とする作業については私が担当しています。息子と協力して日々の栽培管理に努めています。

(孝章さん)私は、小さい頃から農業の手伝いを経験し、11年前に就農しました。一日ごとに田んぼや農作物が全く違う姿を見せてくれるのがとても楽しくやりがいを感じます。集落には同世代の農業者が多く、お互いに切磋琢磨しています。これからも父と農業を営み、技術や知識を学んでいきたいです。そして私も、農業の楽しさ・やりがいを次の世代に伝えたいです。

庄農生トライ

SHONOSEITRY

料理を通して人々に笑顔を

食品科学科3年 佐藤 怜美さん 鶴岡市



私が料理を好きになったのは小学生の頃にお弁当作りの手伝いをしたことがきっかけでした。調理についてもっと詳しく勉強したいと思い庄内農業高校に入学し、学校では加工技術だけではなく衛生管理から始まり、食品の持つ特徴など理論的に学びました。例えば、卵白の持つ起泡性と空気変性を生かしてシフォンケーキを作ったり、ベクチンの性質を利用してジャム作りなどを行いました。私は将来、学校で学んだことを生かして食品関係の仕事を就きたいと考えています。そして料理を通してたくさんの人を笑顔にしたいと思います。



// 生育状況をこまめに確認中… //

**育苗ハウスを有効活用
適期で収穫しやすい
栽培方法**

スプレー菊は、育苗ハウスを有効活用して栽培できることが大きなポイント。また、電照設備やシェードを駆使して的確な開花調整を行うことで、需要期での収穫が可能になります。そのため、栽培プランが立てやすい品目となっています。挿芽の時期をずらしていくことで年間を通して栽培が可能です。

JA花き部会菊・スプレー菊専門部では、毎年出荷目揃え会を行い、アグリアドバイザーや園芸特産指導員を中心に出荷規格・出荷調整方法について入念に確認しています。JAでは、「前々日集荷」に積極的に取り組み、前売りの強化を図つて事前に取引市場へ出荷量を伝え有利販売に努めています。高品質出荷を継続し取引市場との引き合いを強めています。

集荷時の緻密なチェックで 高品質維持

栽培面では、園芸特産指導員が繰り返し圃場巡回を行います。2022年産の生育は順調に推移しており、6月～7月咲きの収穫最盛期に向けハウス内の温度管理や病害虫防除のため薬剤散布などを実施していきます。

// いざ、出荷! //



花き栽培振興につなげる JA独自の助成

JAでは、令和4年4月から生産者の作付け拡大、園芸販売高の向上を目的に園芸振興支援に取り組んでいます。花きはハウス作付け面積80坪以上の新規作付け・拡大取組者を対象に種苗費の50%を上限に助成を行います。また、ハウス付帯設備及び生産出荷設備・機器等を対象とする園芸作物生産性向上支援助成、土壤改良資材の支援を図る施設園芸生産性改善助成などの支援があります。

申込要件の詳細、他品目に関する助成については、各支所営農課または園芸特産課（0235-64-5831）までお問い合わせください。

※助成申請期間は、令和4年12月末日まで

// お気軽にどうぞ! //



J A庄内たがわの

春夏秋冬!

いろどりスプレー菊

フラワーアレンジの花材やオリンピックのブーケ、物日需要に鮮やかな彩りを放つスプレー菊。赤、ピンク、オレンジなど明るい色の花を咲かせます。シングルやデコラなどバリエーション豊富な花形を魅せるスプレー菊は霧吹きで吹いた時のように放射状に花を咲かせることが名前の由来とされています。1970年代に日本へはじめて導入されました。

J A庄内たがわ管内では藤島・櫛引地域を中心に生産者13人が栽培しており、年間出荷量60万本を目指して東北（仙台・青森）・関東（青梅）市場に出荷しています。

月 旬	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
w7 2月中旬				挿芽 電去 電照 消灯	シェード開始	発芽		収穫				
w10 3月上旬				挿芽 電去 電照 消灯	シェード開始	発芽		収穫				
w13 4月上旬				挿芽 電去 電照 消灯	シェード開始	発芽		収穫				
w17 4月下旬				挿芽 電去 電照 消灯	シェード開始	発芽		収穫				
w20 5月上旬				挿芽 電去 電照 消灯	シェード開始	発芽		収穫				
w27 7月上旬				挿芽 電去 電照 消灯	シェード開始	発芽		収穫				
w34 8月下旬				挿芽 電去 電照 消灯	シェード開始	発芽		収穫				

100坪ハウス 4間×25間の場合
15cm角×7目 = 105cm
6条 2本植え
坪 130~140本 栽植 1本価格 約55円

※シェードは日の出から日没時間が12時間以上の時使用する。また、日長が長い時期は13時間シェード推奨。

●挿芽 ◇電去 ◇べたかけ除去 ◇シェード開始 ◇発芽 ◇収穫 ◇電照 ◇消灯 ◇電照開始 ◇電照終了



加工用ニラ・出荷に向け規格確認

ニラ部会は5月18日、羽黒地域のJA農業分析センターで加工用ニラの目揃え会を開き、参加した部会員ら約20名が出荷規格について確認した。園芸特産指導員は、葉長約40cmに揃える他、朝露・降雨後の収穫は水分をよく取ってから出荷するなど集荷受付時の注意事項を説明した。今年産の生育状況は、病害虫被害が少なく葉色も良好で順調に生育している。20日より集荷が始まりJA各支所の集荷場にて受け入れを行っている。出荷は8月まで続き、6月上旬には収穫のピークを迎える。JAは、年間販売高375万円、取扱数量25tを目標とし、主に加工向けとして地元市場へ出荷していく。



孟宗・缶詰加工今年も賑わう

藤島地域にあるJA農産加工技術研修施設では5月6日から、春の味覚を代表するタケノコ「孟宗」「月山筍」の缶詰加工が行われ賑わいを見せている。家庭で孟宗を水煮にし、灰汁抜き処理したもの同加工所に持ち込み、缶に詰めた後、JA女性部員の中で調理技術などを指導する「JA生活シーダー」が缶に水を入れ消毒処理を行い、長期保存できるよう圧力釜で仕上げて翌日利用者へお渡しする。利用者は「早朝から利用できるので毎年お世話になっている。また来年も利用したい」と語っていた。一日に約30人が利用し、約300缶が作られる。同施設では、7月初旬まで受け入れる予定だ。



キュウリ・日中の温度管理を徹底し品質向上目指す

櫛引地域の下山添野菜出荷組合と営農販売部は5月16日、県主催のキュウリ栽培における環境データなどを活用した栽培技術向上研修会に参加した。生産者と県の関係者ら約10人がキュウリ団地のハウスを調査し、高品質生産や収量増加に向け栽培方法などを確認。株式会社デルフィージャパンの齊藤章さんが講師を務め、急激な温度変化は避け、換気などを繰り返しながらハウス内温度を午前23°C～午後27°Cを目安に少しづつ温度を上げていくようアドバイスした。また、湿度にも留意し果実や葉を結露させないこととした。JAは今後、県共同の栽培マニュアルを用いながら栽培技術の向上に活かしていく。



デラウェア・花粉検鏡でジベレリン処理の適期を見極める

ぶどう部会は5月17日、櫛引地域でブドウ「デラウェア」の花粉の検鏡を実施した。部会員約30人が新梢を持ち寄り、県庄内総合支庁農業技術普及課の担当者と園芸特産指導員がジベレリン処理の適期を調査した。この作業は、ブドウの無核化を目的とするジベレリン処理を行う際の適期を判定するもので、検鏡の結果、今年産の花粉形成は順調に推移している。ジベレリン処理の適期は開花の10～14日前とし、検体となる新梢は、種枝の先端から2番目の新梢で、第1果房から下方に葉が3枚あるものが対象である。圃場によりばらつきはあるが今年産の適期は前年産より4～5日早くなる見込みだ。



地域とJAを結ぶネットワーク 各地の話題を追って

JA NEWS

掲載記事の詳細はホームページに掲載しております



御田植祭で五穀豊穣を祈願

JAは5月25日、羽黒地域にある出羽三山神社で御田植祭を行った。三神合殿で神事を執り行い、今年度の五穀豊穣を祈願した。御田植祭は、農業を取り巻く状況が年々厳しさを増す昨今、自然の恵みと神の恩恵に感謝し、清新な気持ちで米づくりに取り組もうと同JAが企画し、今年で16回目となる。例年、大鳥居の隣に設けた献饌田で行っていたが、21年度に引き続き新型コロナウイルス感染症予防の観点から出席者の人数を制限して行われた。

この日は、同JAの役職員ら約10人が出席。神職が神事を執り行い、祈祷を受けた苗を献饌田に太田政士組合長が植栽した。今後、17.2haの献饌田で栽培管理し、今秋行う予定の抜穂祭で関係者らが収穫する。収穫した米は、11月に行われる同神社の新嘗祭や、年間の祭典・御神事などで大神様へ御供えされる。



庄内柿・大玉生産に向け女性の力を活かす

J A庄内柿生産組織連絡協議会は5月27日、羽黒地域で女性目線での気づきやアイデアを活かして産地形成を進めていくと女性生産者を対象にした庄内柿の摘蕾講習会を行った。管内の女性生産者約30人が参加し、摘蕾時のポイントや今後の栽培管理について学んだ。講師となった庄内柿アグリアドバイザー（熟練生産者）の斎藤裕志さんは1結果枝1蕾を基本に葉が5枚以下の場合は全摘蕾するようアドバイスした。今年産は、5月の気温がやや高めで経過したことから平年より生育が3～4日早く5月下旬に開花を迎えた。今後、大玉生産に向け新梢管理や適期防除を行う他、隨時摘果を行っていく。



サクランボ・高品質生産に向け安全を祈願

さくらんぼ部会は5月20日、櫛引支所で今年産販売取扱会議を開いた。同部会員とJA職員ら約10人が取扱規格や予約数量を遵守した出荷方法などを確認。JAタウンでのインターネット販売やふるさと納税返礼品を中心としたギフト用サクランボの取扱いを計画した。生育は、寒暖差の影響から開花期間の訪花昆虫の活動が少なかったが人工受粉作業などで対応を行った。収穫盛期は「佐藤錦」で6月下旬、「紅秀峰」で7月上旬を見込んでいる。今後、高品質生産に向け雨除被覆の実施や着色管理に努め、適期で収穫していく。会議後、安全祈願祭が行われ、有利販売と農作業中の事故防止を祈念した。



プチヴェールは芽キャベツとケールを交配させて生まれた野菜です。カルシウム、カロテン、ビタミンC、鉄分などが多く含まれており、栄養価が高いのが特徴です。また、味にクセがないのが大きな料理に使うことができるのも魅力です。



フランス語で「小さな緑」を意味します。

園芸特集 始めてみませんか？栽培

所得目安

10aあたりの粗収益

$1,400\text{kg} \times \text{単価}1,000\text{円}$
 $= 1,400,000\text{円}$
 $\Rightarrow \text{所得率}39.4\% \text{ (減価償却を除く)}$
 $= \text{所得 : 約}551,600\text{円}$

J A 庄内たがわ管内のプチヴェール栽培は、1994年から始まり、現在は生産者20人が栽培しています。育苗後のハウスを有効活用し、8月に定植、翌年1月～3月に収穫します。また、販売単価も期待でき、冬場の重要な収入源になります。また、年々需要は拡大しています。栄養バランスが良く、どんな料理にも合わせやすいことから年々需要は拡大しています。

冬の収入源に
育苗ハウスを活用し

J Aでは、新規作付・収量確保に向けて全力でサポートしていきます！ご興味のある方は、営農販売部園芸特産課までご相談ください。
☎ 0235-64-5831
✉ entoku@ja-shonai.or.jp

月 旬	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
栽培体系	連作対策 施肥・耕起	▲定植 追肥	追肥	追肥	低 温 に 当 て る	保 湿 ・ 加 温	收 穫					
	ハウス作り	ベッド作り	ハウス遮光	活着後遮光除去								



貯金 Q&A

Q 都市銀行などでは無通帳化が進み、紙の通帳ではなく「電子通帳」に替わっていると聞きますが、JAバンクでも同様に替わっていくのでしょうか？
A JAバンクでは現時点で紙の通帳を継続し、引き続きご利用いただけますが、新たに便利なサービスとしてスマートなどから利用できる「JAバンクアプリ」をご用意しております。このアプリは、スマートからご自分の通帳残高や最大25ヶ月分の人出金履歴が照合でき、JAネットバンクなど各種サービスの窓口ともなる大変便利なサービスとなっています。キャッシュカードを発行している貯金口座があれば、スマートから簡単に登録・利用できます。是非ご利用ください。

アプリの詳細や
ダウンロードはこちから



JAバンクアプリ



園芸特集

小学生らが昔と現代の田植え方法を学ぶ

庄内町立余目第四小学校の5年生児童28人は5月26日、地元生産者の水田で県産米「亀の尾」の田植えを体験した。この日は、青年部新余目支部の指導のもと、昔と現代の農作業方法の違いについて学び、苗を人差し指と親指で4～5本程度つまみ、15cm間隔で真っ直ぐ植えるようアドバイス。苗を受け取った児童らは泥だらけになりながらも協力し、一株一株丁寧に植えていた。参加した児童は「自分たちで植えた苗が美味しいお米になるのが楽しみ」と笑顔で話した。今後は、9月の稻刈りに向けて苗の成長を見守っていく。同日、余目第四幼稚園でも田植え体験が行われた。



パルシステム埼玉と田植え交流会を開催

広大な庄内平野で生産される「庄内米」の魅力発進と組合員同士の交流を図ろうと生活協同組合パルシステム埼玉の組合員が5月28日、鶴岡市の平田地区で田植え体験を行った。パルシステム埼玉の組合員親子ら約30人と地元米生産者、JA庄内たがわの職員らが参加し、約30haの田んぼに「つや姫」の苗を手植えした。昔ながらの手法である「型枠」を転がし手植えの位置を決める体験も行われ、田んぼを提供した五十嵐良一さんは「苗や田んぼを直接手や足で触れて田植え体験を楽しんでほしい」と話した。10月には「稻刈り交流会」が予定され、パルシステム埼玉の組合員向けに販売される。



女性部・瓶の中に癒しの空間を

女性部櫛引支部は5月19日、櫛引支所でハーバリウム講習会を開いた。参加した部員約20名は、ボトルの中に入れたドライフラワーやブリザーブドフラワーをピンセットなどで入れ、瓶の中に自身の思い描いた癒しの空間を彩った。日本ハーバリウム協会会員である斎藤信子さんが講師となり「花をボトルに詰め込みすぎないこと、オイルを注ぐ際は花が潰れないようゆっくりボトルを傾けながら注ぐこと」とアドバイスした。部員らは「デザインしたボトルにオイルを注ぐと花がくっきり浮かんで表情が豊かになり感動した。癒しの時間となった」と話した。完成した作品は自宅やオフィスに飾るなどして楽しむ。



たくましく育ってね！

鶴岡市羽黒地域にある標高約350mある月山高原牧場で5月17日、繁殖用和牛の入牧と牛の健康と成長を祈る安全祈願祭が行われた。繁殖促進と強靭な体質作り、農家の労力軽減や畜産経営の安定化を図ることを目的とし、同市や酒田市、庄内町、遊佐町の畜産農家から和牛約140頭が運び込まれ、体重や体高測定、健康状態確認の後、約100haの牧草地に放たれた。春から秋まで放牧して育てる夏山冬里方式は、1976年から導入され、標高が高いこの牧場は夏でも涼しく、高低差があるため足腰を鍛えるのに最適の環境だ。24日には乳牛と和牛の親子が統けて放牧され10月に下牧する予定。



「心の声」

何をしている時が一番幸せですか？

かほ
松田 佳穂さん(18) 倫引支所管内

アットドアな活動が好きで、休日は友人や家族とテニスをしたり写真を撮りに行ったりしています。実家が農家なので現在は農業の手伝いも頑張っています。

小さな事で「幸せだなあ～」と思うことは結構あります。諦めていた花が咲いたり、孫が帰省の時は「ただいま～」と抱きついで来たり。日々2人暮らしが大家族になり忙しいけど賑やかで幸せを感じます。

E・Hさん【新余目】

店でお客様をお迎えして、元気な声で接客している時が一番幸せなひとときです。

Y・Sさん【柳原】

新しい事に挑戦することです。

S・Nさん【柳原】
山にこぶしの開花と共に耕起が始まり、桜が咲き、藤の花と朴葉の白い花が咲き、田植えも終わりを伝えます。山の移り変わりを感じながら冷たい缶コーヒーを飲むことが今の一番幸せです。山の木々も大樹になりました。

R・Hさん【立川】

仕事後のビール。

N・Sさん【鶴岡市】
ワインに合うおつまみを作つて家族と一緒においしくって言いながらごはんを食べている時が一番幸せです。

H・Sさん【鶴岡市】

私が幸せだと感じる時は、大晦日に家族全員で食事をする時です。普段は仕事の関係で、一緒に食事ができないので、一年の締めくくりに団らんできるのが幸せな時間です。

K・Yさん【朝日】

コロナ禍で錆り溜めた旅番組をおさらいして、自分だけのオリジナル旅プランを立て妄想旅行している時が、今は、幸せなひとときとなっています。時には駄菓子を食べたり、その地方の名物、名酒などいただきながら至福のひとときを過ごします。1日も早く、思いきり旅を楽しめる日がくるといいですね。

S・Sさん【温海】

80km先にいる娘…4月から関西の大学へ進学しました。当たり前の様に毎日通ごしていた。今は家に居ない淋しさ。その我が子から、たまにかかってくる電話。電話でも会話している事が今一番幸せだよ。越沢から目一杯全力で君を応援するから。

M・Iさん【温海】

新聞を読んでいる時間が一番幸せです。子育ての頃は番組欄を見るのが精一杯でした。今はゆっくり時間をかけて、陽から隅まで読みます。贅沢なひとときです。

S・Mさん【新潟県】

私はもちろん、家族が健康で過ごせているときに、仕事に向き合つていらるるとき。ここ数か月、体調を崩し休職して体調を整えていました。子供たちの笑顔や言動にパワーをもらい、職場の方の支えがあって継続できていたことに感謝しているこの頃です。また、笑顔で仕事に向き合えるよう頑張ります。

H・Aさん【長野県】



aito Jun 2022
No.327

発行／庄内たがわ農業協同組合
〒999-7611 山形県鶴岡市上藤島字下幡中下3-1
TEL.025-64-3000
電子メール tagawa@ja-shonai.or.jp

ホームページ
自営／庄内農村工業農業協同組合連合会

